

基礎看護学実習計画

授業科目	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学実習Ⅲ
実習目的	看護実践場面での体験を通して対象を理解し、入院生活を支えるための援助の過程を経て看護実践の基礎となる知識・技術・態度を習得する。また、看護とは何かを考え、看護への関心を深めることで自己の看護観を養う。		
実習目標	看護の対象となる人への看護援助を通し、看護活動がわかる	対象者の日常生活援助を通して、援助の必要性を理解し、ニーズを充足するための看護について考えることができる。	対象者のニーズに応じた援助を実践するための看護過程の基礎を学ぶ。
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師と患者との関わりから看護活動を知る。 2. 看護の対象とかかわり信頼関係を築くために、看護者としての基本的な態度や行動がとれる。 3. 看護者として望ましい態度、責任ある行動がとれる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病・治療・入院による生活の変化から、対象者の看護の方向性を理解する。 2. 対象の日常生活援助の実施を通して、対象者に合わせた援助の適用の実際を理解する。 3. 援助場面を振り返り、ニーズを充足するための看護について考えられる。 4. 看護者として必要な態度を養うことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病・治療が患者に与える影響を理解し、患者のニーズを充足するための看護を考えることができる。 2. 患者のニーズを充足するための看護が実施できる。 3. 看護者として望ましい態度、責任ある行動がとれる。
実習方法	病態が安定し、コミュニケーションが取れる患者を1名受持ち、日常生活援助を見学する。	患者を1名受持ち、疾病・治療状況を理解しながら、日常生活の援助を実施する。	患者を1名受持ち、一連の看護過程を展開する。
開講時期	1年次前期	2年次前期	2年次前期
単位・時間	1単位 45時間	1単位 45時間	2単位 90時間
評価	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に掲示する。	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に掲示する。	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に掲示する。
先修条件	なし	基礎看護学実習Ⅰの単位修得	看護実践演習の単位修得 基礎看護学実習Ⅱの履修

地域・在宅看護論実習計画

授業科目	地域・在宅看護論実習Ⅰ				地域・在宅看護論実習Ⅱ		
実習目的	様々な健康レベルの対象者が、地域の中でどのような保健行動やサービスを活用しながら、何を大切に暮らしているのか生活の実際を知る。				地域で生活しながら療養する人々とその家族の生活を理解し、在宅で提供する看護実践に必要な基礎的能力を養う。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 様々なサービスの目的とサービス内容、その対象者について理解する。 利用者との関わりを通して、その方々がそれぞれの生活の場で何を大切に暮らしているかを知る。 地域で生活を支えるための多職種との協働の実際や看護の活動について知る。 				<ol style="list-style-type: none"> 在宅療養者と家族の生活を理解し、対象に応じた看護援助を考えることができる。 在宅ケアに関係する職種や機関を理解し、連携・協働の必要性と意義が考えられる。 健康障害に応じた在宅ケアシステムについて理解し、必要な社会資源や保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を考えることができる。 		
実習内容	まちなか	通所介護	障害者施設	健診センター	訪問看護	老人保健・福祉施設	町村地域包括支援センター
	<ol style="list-style-type: none"> まちなかで行われているプログラムに参加し、参加対象者や参加目的を理解する。 高齢者の地域での暮らしぶりを知ることや何を大切に暮らしているかを理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 通所介護を利用されている高齢者の特徴や利用目的について理解する。 利用者とのコミュニケーションを通じ、利用者や家族がサービスに期待していることについて理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 利用者との関わりを通して、施設利用の目的と対象者の特徴を知る。 生活介護や自立訓練、就労支援などの活動に参加し、1日の暮らしがどのように支えられているのかを知る。 	<ol style="list-style-type: none"> 自らの健康の保持増進、疾病予防のためにどのようにヘルスケアシステムを活用しているのかを理解する。 地域で暮らす人々の健康を支える保健活動の実際を知る。 	<ol style="list-style-type: none"> 療養者の訪問目的について説明を受け、理解できる。 療養者の生活を知り、行われている援助や活用している社会資源とその必要性について理解できる。 次回の訪問までを予測した援助について考えることができる。 学内実習において療養者・家族の望む生活と訪問目的の意味を考えることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 介護保険制度における施設サービスの内容や特徴、基準が理解できる。 施設で暮らす高齢者とコミュニケーションをはかり、日常生活状況を理解できる。 高齢者を支える制度と施設サービスにおける看護の役割について考えられる。 	<ol style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターの役割・機能が理解できる。 在宅ケアに関係する職種や機関との連携内容を知り、連携・協働の必要性が理解できる。 地域包括ケアシステムの中での看護の役割について考えることができる。
実習方法	<ul style="list-style-type: none"> 行われているプログラムに参加し、参加者やボランティアの方とのコミュニケーションをはかる。 	<ol style="list-style-type: none"> 各施設のプログラムに沿って利用者とのコミュニケーションを図る。 送迎やレクリエーション、日常生活援助などに参加しながら利用者との積極的に関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1日の流れに沿って入所支援や生活介護、生産活動の実際に参加しながら、利用者とのコミュニケーションを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象者1名に学生1名が同行し、健診と保健指導の実際について見学する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例を受持ち、同行訪問後、基礎情報を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各施設の日課に沿ってケアに参加する。 食事や入浴、排泄援助などに積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのプログラムに沿って実習 それぞれのプログラムに応じた実習時間とし、現地集合、現地解散とする。
		1グループ2～3名の配置 各施設1日ずつの実習とする。				1グループ2～3名の配置 各セクションを1週ずつローテーション	
開講年次	1年次後期				3年次		
単位・時間	1単位45時間				2単位90時間		
評価方法	出席状況・態度・実習目標達成度(評価表による)				出席状況・態度・実習目標達成度(評価表による)		
先修条件	なし				地域・在宅看護論6科目の履修		

成人看護学実習計画

授業科目	成人看護学実習Ⅰ	成人看護学実習Ⅱ
実習目的	成人期にある対象の特性をふまえ、経過およびセルフケア能力に応じた看護実践ができる。	
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の望む生活やおかれている状況を理解し、必要な援助について考えられる。 2. 疾病や治療の経過、症状に応じた援助が考えられる。 3. 患者の苦痛や気がかりに関心を寄せることができる。 4. 患者の看護の責任をもつ行動について理解できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の望む生活やおかれている状況を理解し、必要な援助について考えられる。 2. 疾病や治療の経過、症状に応じた援助が考えられる。 3. 患者の苦痛や気がかりに関心を寄せることができる。 4. 患者の看護の責任をもつ行動について理解できる。
実習方法	急性期・周手術期にある患者への看護実践	慢性期・回復期にある患者への看護実践
	1グループ5～6名の配置	1グループ5～6名の配置
開講時期	2年次後期	2年次後期
単位・時間	2単位90時間	2単位90時間
評価	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に提示する。	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に提示する。
先修条件	成人看護学概論、基礎看護学実習Ⅲの履修	成人看護学概論、基礎看護学実習Ⅲの履修

老年看護学実習計画

授業科目	老年看護学実習 I	老年看護学実習 II
実習目的	健康障害を持つ患者の特徴と経過、療養の場に応じた看護が実践できる。	
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の望む生活や、加齢現象・健康状態を理解し、必要な援助について考えられる。 2. 健康障害を持つ患者に、疾病や治療の経過、症状に応じた援助ができる。 3. 患者の苦痛や気がかりに関心を寄せ、尊重した態度がとれる。 4. 患者の看護に責任をもつ行動ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者とその家族の望む生活や、健康状態や加齢変化を理解した看護が判断できる。 2. 多様な健康状態にある患者とその家族に対して、健康レベルと療養の場に応じた看護が実践できる。 3. 患者とその家族との援助関係が形成できる。 4. メンバーの一員としての自覚を持ち、受け持ち患者のケアが継続できるような役割発揮ができる。
実習方法	急性期・リハビリテーション期・慢性期・回復期にある患者を受け持ち、看護を展開する。	多様な健康レベル(急性期～慢性期、終末期)にある患者とその家族に対して経過と療養の場に応じた看護を実践する。
	1グループ3～6名の配置	1グループ3～6名の配置
実習時期	3年次	3年次
単位・時間数	2単位90時間	2単位90時間
評価	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に提示する。	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に提示する。
先修条件	老年看護学概論 I・II 老年看護学援助論 I・II の履修 基礎看護学実習 III の単位修得	老年看護学概論 I・II 老年看護学援助論 I・II の履修 基礎看護学実習 III の単位修得

小児看護学実習計画

授業科目	小児看護学実習 I	小児看護学実習 II
実習目的	あらゆる健康レベルにある子どもや家族との関わりを通して、小児看護に必要な基礎的能力を養う。	
実習目標	1. 保育活動を通して子どもとかかわり、乳幼児期の特徴と成長発達に向けた支援が理解できる。 2. 地域における子どもと子育て家庭への支援を理解できる。	1. 健康障害や入院が成長発達段階にある子どもと家族に与える影響について理解することができる。 2. 健康障害のある子どもと家族に必要な看護について理解できる。 3. NICU・GCUにおける看護の特殊性と看護者の役割について理解できる。
実習方法	帯広市内の保育所での実習 帯広市内の地域子育て支援センターでの実習 1グループ2～5名の配置	小児病棟・NICU・GCUでの実習 1グループ5～6名の配置
実習時期	2年次 前期	3年次
単位・時間	1単位 45時間	1単位 45時間
評価	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に提示する。	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に提示する。
先修条件	なし	小児看護学概論、援助論Ⅰ・Ⅱ、援助論演習の履修 基礎看護学実習Ⅲの単位修得

母性看護学実習計画

授業科目	母性看護学実習			
実習目的	マタニティサイクルにある母子の身体的・心理的な特徴と健康課題への理解を深め、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を養う。			
実習目標	<p>1. 妊産婦および新生児との関わりを通して、身体的・心理的・社会的な特徴や生理的な経過を理解することができる。</p> <p>2. マタニティサイクルにある女性の主観的な考えを大切にし、より健康で安全な妊娠・分娩・産褥経過を促進するための看護について考えることができる。</p> <p>3. 母子を取り巻く保健・医療・福祉関係者と連携・協働し、子どもを産み育てることを支援する必要性について理解できる。</p>			
実習内容	地域実習	外来実習	産科病棟	新生児室
	<p>1. 法律・制度に基づく子育て支援事業・母子保健事業の実際の理解</p> <p>2. 母子看護における多職種連携・協働の必要性の理解</p>	<p>1. 妊娠各期の生理的変化及び胎児の発育状態の理解</p> <p>2. 妊娠各期の対象の心理・社会的状態の理解</p> <p>3. 妊婦の日常生活と関連付けた保健指導の必要性の理解</p>	<p>1. 産褥期の生活と産褥経過の理解</p> <p>2. 順調な産褥経過を維持・増進するための看護の理解</p> <p>3. 親子関係確立に向けた援助の理解</p> <p>4. 退院に向けての援助の必要性の理解</p> <p>5. 分娩期の看護の理解</p>	<p>1. 早期新生児の生理的特徴の理解</p> <p>2. 早期新生児の諸検査、ケアの目的の理解</p> <p>3. 早期新生児の子宮外生活適応に向けて日常生活援助の理解</p>
実習方法	地域で行われている子育て支援事業・母子保健事業の見学	助産外来の見学	受け持ち褥婦の看護の実施 ※分娩期の看護は見学・一部実施	新生児看護の見学・実施
	各セクションをローテーション			
開講年次	3年次			
単位・時間	2単位90時間			
評価方法	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に提示する。			
先修条件	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、母性看護学援助論演習の履修、基礎看護学実習Ⅲの単位修得			

精神看護学実習計画

授業科目	精神看護学実習		
実習目的	精神障害のある対象の理解を深め、対象に応じた看護実践に必要な知識・技術・態度を修得する。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害のある対象を、ひとりの人間として尊重することができる。 2. 精神障害が日常生活や対人関係に及ぼす影響を理解できる。 3. 精神障害のある対象を理解し、病期や治療過程に応じた看護活動について理解できる。 4. 精神障害者が地域で生活するための支援について理解し、求められている看護の役割を考えることができる。 5. 患者－看護師間の相互作用の中で、学生自身が治療的環境の一部であることを意識して行動することができる。 		
実習内容	病院実習	多機能型福祉サービス事業所	精神障害者地域生活支援事業所
	1. 患者の入院形態、入院目的を理解できる。	1. 実習施設の概要、役割、機能を理解できる。	1. 実習施設の概要、役割、機能を理解できる。
	2. 疾病、治療の経過を理解し、病期に応じた看護の目標を理解できる。	2. 就労支援、活動支援、生活支援の実際を通して、社会資源等のサービス利用の意義を理解できる。	2. 精神障害者地域生活支援、地域活動支援、相談支援の実際を通して、社会資源等のサービス利用の意義を理解できる。
	3. 患者の生活を支えるために必要な看護援助を理解し、指導を受けながら安全に実施できる。	3. 精神障害者の回復のプロセスを支える看護の役割について、考えることができる。	3. 精神障害者の回復のプロセスを支える看護の役割について、考えることができる。
実習方法	患者1名を受け持ち、閉鎖病棟における患者の日常生活援助を中心に看護過程を展開する。 帯広厚生病院5日間	サービス利用者・スタッフとともに作業・活動プログラムに参加し、地域で生活する精神障害者の就労支援および生活支援の実際を学ぶ。 帯広ケア・センター1日間	サービス利用者・スタッフとともに活動プログラムに参加し、地域で生活する精神障害者の地域生活支援、地域活動支援および相談支援の実際を学ぶ。 帯広生活支援センター1日間
	1グループ6名ずつの学生で構成する。		
開講年次	3年次		
単位・時間	2単位90時間		
評価方法	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に提示する。		
先修条件	精神看護学概論Ⅰ・Ⅱ、援助論Ⅰ・Ⅱの履修、基礎看護学実習Ⅲの単位修得		

看護の統合と実践実習計画

授業科目	統合実習
実習目的	看護チームの一員として主体的に看護を実践し、チームメンバーの役割について考え、その責任を果たす行動について理解することができる。
実習目標	<p>1. 看護チームの一員として受け持ち患者のケアの責任を果たす行動について理解できる。</p> <p>1) 病棟の概要（看護体制、病棟目標など）や患者の特徴、起こりやすい事故とその対策についてオリエンテーションを受ける。</p> <p>2) 受け持ち患者のケアの責任 ①受け持ち患者の計画立案 ②患者に合わせた安全安楽な援助の実施 ③介入計画の評価と継続</p> <p>3) 本日の患者の状態に合わせた援助計画を、根拠を明確にして優先順位・実施時間を判断し考えることができる ①本日の行動計画の立案 ②看護師のシャドウイングを行い、時間管理・多重課題への対応・他者との調整の実際について説明をうける</p> <p>2. 看護師として必要な態度と自己の課題を明確にできる。</p> <p>(1) 専門職業人としての必要な接遇</p> <p>(2) 患者を理解しようとする態度</p> <p>(3) 自己の看護観の整理</p> <hr style="border-top: 1px dotted black;"/> <p>1 グループ 3～5名配置</p>
開講年次	3年次後期
単位・時間	2単位90時間
評価方法	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に提示する。
先修条件	基礎看護学、臨地実習（基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、地域・在宅Ⅰ、成人Ⅰ・Ⅱ、小児Ⅰ）の単位修得 臨地実習（老年Ⅰ・Ⅱ、小児Ⅱ、母性、精神、地域・在宅Ⅱ）の履修